

SDGs に積極的、 調査開始以降、 初めて前年を下回る

取り組んでいる目標、
「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」がトップ
取り組みによる効果、
「企業イメージの向上」がトップ



本件照会先

佐藤 智之(支店長)
帝国データバンク
山口支店
TEL:083-974-5550

発表日

2025/08/13

山口県・SDGsに関する企業の意識調査(2025 年)

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

『SDGs に積極的』な企業の割合は 55.4%。前年から 4.9 ポイント低下し、2020 年 6 月の調査開始以降で初めて低下した。内訳は、「意味および重要性を理解し、取り組んでいる」が 30.0%、「意味もしくは重要性を理解し、取り組みたいと思っている」が 25.4%となった。また、SDGsの項目に取り組む企業の 67.7%がその効果を実感しており、「企業イメージの向上」「従業員のモチベーションの向上」が上位となった。

※帝国データバンクでは、「SDGs」に関する企業の意識調査を実施し、

山口支店で山口に本社を置く企業の結果を集計・分析した。

調査期間は 2025 年 6 月 17 日～6 月 30 日。

調査対象は山口県 476 社で、有効回答企業数は 130 社(回答率 27.3%)。

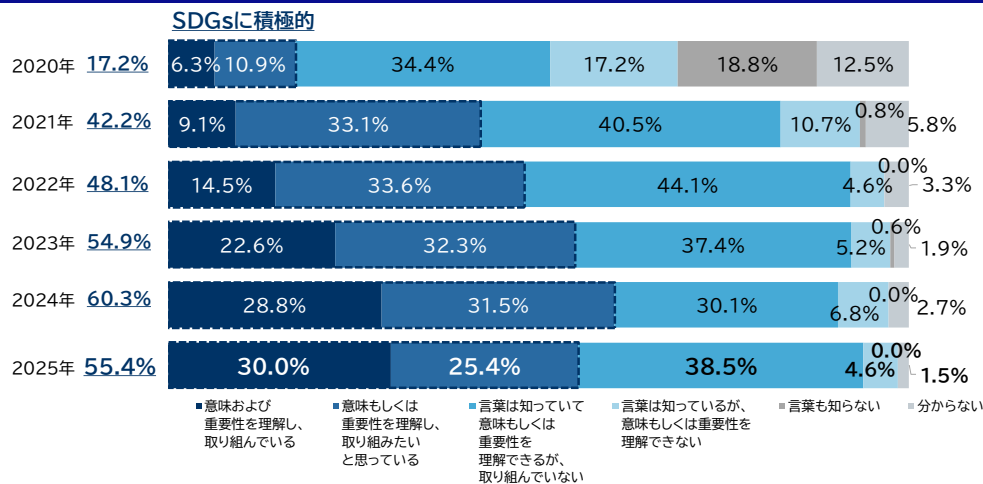
本調査は 2020 年 6 月以降、毎年 6 月に実施し、今回が 6 回目。

1.『SDGsに積極的』な企業、調査開始以降、初の前年比低下

自社におけるSDGsへの理解や取り組みについて尋ねたところ、「意味および重要性を理解し、取り組んでいる」と回答した企業は 130 社中 39 社、構成比 30.0%だった。前回の 2024 年 6 月調査 (28.8%)から 1.2 ポイント上昇した。一方、「意味もしくは重要性を理解し、取り組みたいと思っている」は 25.4%(33 社)で、前回調査(31.5%)から 6.1 ポイント低下した。この 2 項目を合計した『SDGsに積極的』は 55.4%(72 社)となり、前回調査(60.3%)から 4.9 ポイント低下した。2020 年 6 月の調査開始以降、初めて前年を下回った。一方、「言葉は知っていて意味もしくは重要性を理解できるが、取り組んでいない」(38.5%・50 社)は、構成比が最も高く、前回調査(30.1%)から 8.4 ポイント上昇した。「言葉は知っているが意味もしくは重要性を理解できない」(4.6%・6 社)と合わせた『SDGsを認知しつつも取り組みに積極的でない』(43.1%・56 社)は、調査開始以降、初めて前年を上回った。

規模別でみると、『SDGsに積極的』では、「中小企業」(構成比 55.5%・66 社)が 5 割を超え、「大企業」(54.6%・6 社)よりも 0.9 ポイント高かった。一方、『SDGsを認知しつつも取り組みに積極的でない』では、「中小企業」(43.7%・52 社)が 4 割を占め、「大企業」(36.4%・4 社)よりも 7.3 ポイント高かった。なお、「言葉も知らない」と回答した企業はなかった。

SDGs への理解と取り組み



注1:母数は有効回答企業130社。2024年調査は146社。2023年調査は155社。2022年調査は152社。2021年調査は121社。2020年調査は128社
注2:下線の値は青枠が指す『SDGsに積極的』の割合
注3:小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

(構成比%, カッコ内社数)									
2025年6月調査	SDGsに『積極的』	意味および重要性を理解し、取り組んでいる	意味もしくは重要性を理解し、取り組みたいと思っている	SDGsを認知しつつも取り組みに積極的でない	言葉は知っていて意味もしくは重要性を理解できるが、取り組んでいない	言葉は知っているが意味もしくは重要性を理解できない	言葉も知らない	分からない	合計
全国	53.3 (5,567)	30.2 (3,152)	23.1 (2,415)	41.8 (4,363)	33.8 (3,525)	8.0 (838)	0.4 (38)	4.5 (467)	100.0 (10,435)
山口	55.4 (72)	30.0 (39)	25.4 (33)	43.1 (56)	38.5 (50)	4.6 (6)	0.0 (0)	1.5 (2)	100.0 (130)
大企業	54.6 (6)	36.4 (4)	18.2 (2)	36.4 (4)	27.3 (3)	9.1 (1)	0.0 (0)	9.1 (1)	100.0 (11)
中小企業	55.5 (66)	29.4 (35)	26.1 (31)	43.7 (52)	39.5 (47)	4.2 (5)	0.0 (0)	0.8 (1)	100.0 (119)
うち小規模	46.7 (21)	20.0 (9)	26.7 (12)	53.3 (24)	48.9 (22)	4.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (45)
農・林・水産	75.0 (3)	50.0 (2)	25.0 (1)	25.0 (1)	25.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (4)
建設	54.2 (13)	29.2 (7)	25.0 (6)	41.7 (10)	37.5 (9)	4.2 (1)	0.0 (0)	4.2 (1)	100.0 (24)
不動産	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (2)	100.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (2)
製造	64.7 (22)	41.2 (14)	23.5 (8)	32.3 (11)	29.4 (10)	2.9 (1)	0.0 (0)	2.9 (1)	100.0 (34)
卸売	52.9 (18)	23.5 (8)	29.4 (10)	47.0 (16)	38.2 (13)	8.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (34)
小売	71.4 (5)	14.3 (1)	57.1 (4)	28.6 (2)	28.6 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (7)
運輸・倉庫	40.0 (2)	20.0 (1)	20.0 (1)	60.0 (3)	40.0 (2)	20.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (5)
サービス	45.0 (9)	30.0 (6)	15.0 (3)	55.0 (11)	55.0 (11)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (20)

注1:網掛けは、山口県の全体以上を表す
注2:母数は有効回答企業1万435社、山口は130社

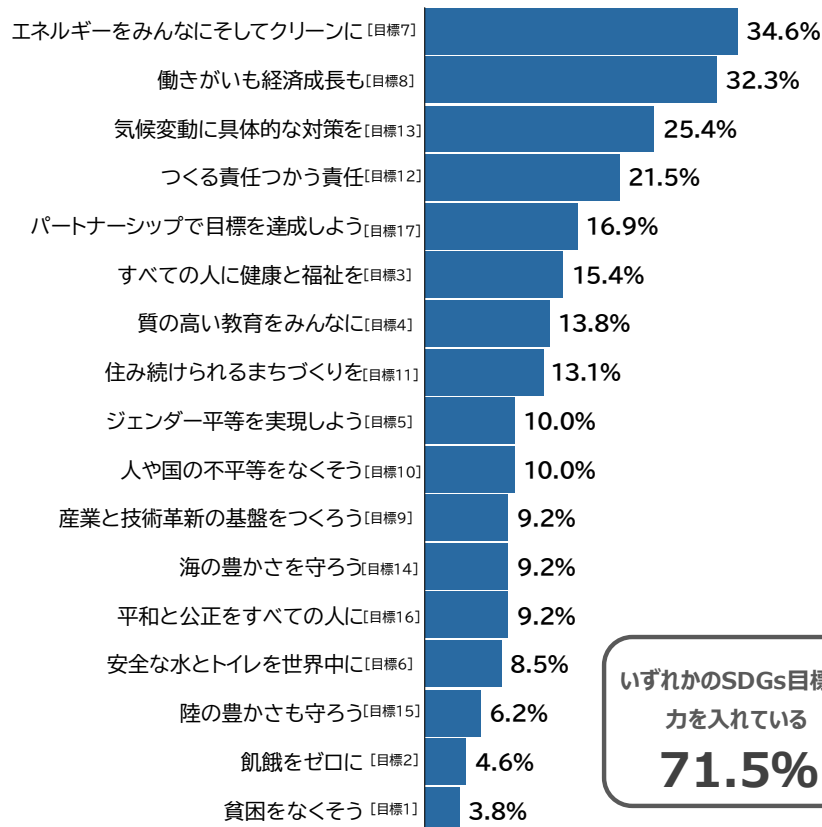
2. 現在取り組んでいる目標、 「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」がトップ

SDGsで掲げられている 17 目標のうち、現在取り組んでいる目標を尋ねたところ、目標の 7 つ目である太陽光や風力などの再生可能エネルギーを活用する「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」が 130 社中 45 社、構成比 34.6%で最も高かった(複数回答、以下同)。次いで、「働きがいも経済成長も」が 32.3%(42 社)、「気候変動に具体的な対策を」(25.4%・33 社)、「つくる責任つかう責任」(21.5%・28 社)が 2 割を超えた。以下、「パートナーシップで目標を達成しよう」(16.9%・22 社)、「すべての人に健康と福祉を」(15.4%・20 社)、「質の高い教育をみんなに」(13.8%・18 社)、「住み続けられるまちづくりを」(13.1%・17 社)、「ジェンダー平等を実現しよう」「人や国の不平等をなくそう」(各 10.0%・各 13 社)、が 1 割台で続いた。

一方、「貧困をなくそう」(3.8%・5 社)は構成比が最も低く、次いで「飢餓をゼロに」(4.6%・6 社)、「陸の豊かさを守ろう」(6.2%・8 社)、「安全な水とトイレを世界中に」(8.5%・11 社)、「平和と公正をすべての人に」「海の豊かさを守ろう」「産業と技術革新の基盤をつくろう」(各 9.2%・各 12 社)が 10% 未満で続いた。

総じて、いずれかの SDGs 目標に力を入れている企業は前年(74.0%)から 2.5 ポイント減の 71.5%となった。

SDGs17 目標のうち、現在力を入れている項目(複数回答)



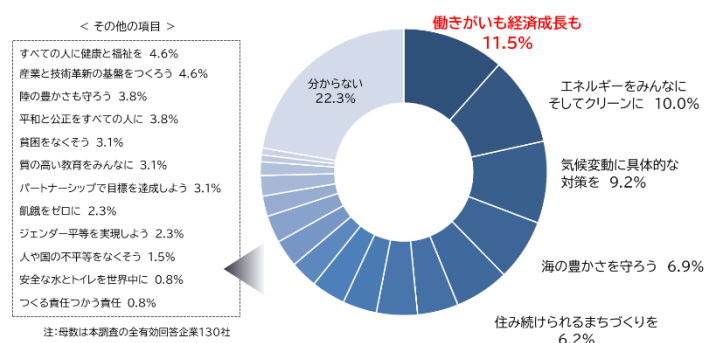
いずれかのSDGs目標に
力を入れている
71.5%

注:母数は本調査の全有効回答企業130社

3.今後取り組みたい目標は「働きがいも経済成長も」がトップ

SDGsで掲げられている 17 目標のうち、今後最も取り組みたい目標を尋ねたところ、目標の 8 つ目に掲げられている「働きがいも経済成長も」が 130 社中 15 社、構成比 11.5%で最も高かった(単一回答、以下同)。以下、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」(10.0%・13 社)、「気候変動に具体的な対策を」(9.2%・12 社)、「海の豊かさを守ろう」(6.9%・9 社)、「住み続けられるまちづくりを」(6.2%・8 社)が続いた。石炭や石油などの化石燃料に代わって、クリーンエネルギーを活用することや、気候変動などによる災害発生への備えを意識する企業が多い傾向が見られた。

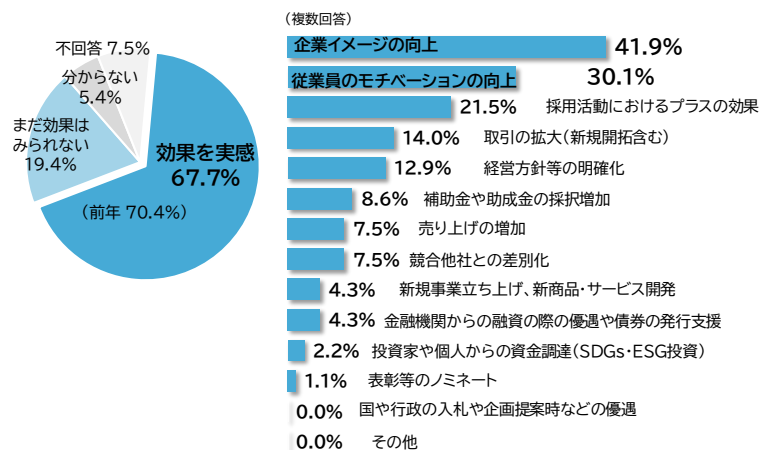
SDGs の 17 目標のうち、今後最も取り組みたい目標



3.取り組みによる効果、「企業イメージの向上」がトップ

現在SDGsへの各目標に力を入れている企業 93 社に、その取り組みによる効果を尋ねたところ、「企業イメージの向上」が 41.9% (39 社)で最も高かった(複数回答、以下同)。次いで、人材の定着率の向上につながる「従業員のモチベーションの向上」(30.1%・28 社)が続いた。以下、「採用活動におけるプラスの効果」(21.5%・20 社)、「取引の拡大(新規開拓含む)」(14.0%・13 社)、「経営方針等の明確化」(12.9%・12 社)が続いた。なお、「まだ効果はみられない」「分からない」「不回答」を除き、何らかの『SDGsへの取り組みによる効果を得た』企業は 67.7% (63 社)となった。

SDGs への取り組みによる効果



まとめ

本調査の結果、『SDGs に積極的』な山口県の企業の割合は 55.4%となり、2020 年 6 月の調査開始以来、初めて前年を下回った。内訳は、「意味および重要性を理解し、取り組んでいる」企業が 30.0%で、「意味もしくは重要性を理解し、取り組みたいと思っている」企業が 25.4%となった。

SDGsの 17 目標のうち、「現在取り組んでいる目標」は『エネルギーをみんなにそしてクリーンに』、「今後最も取り組みたい目標」は『働きがいも経済成長も』がトップとなった。また、取り組みを通じて、「企業イメージの向上」「従業員のモチベーションの向上」の効果を実感している企業が多数を占めた。

一方で、「言葉は知っていて意味もしくは重要性を理解できるが、取り組んでいない」は 38.5%を占めた。また、「言葉は知っているが意味もしくは重要性を理解できない」は 4.6%となり、これらをあわせた『SDGsを認知しつつも取り組みに積極的でない』は 43.1%となり、2020 年 6 月の調査開始以来、初めて、前年を上回った。現状、資金や人的な余裕が少ない中小企業においては、SDGsの目標に対してそれぞれの立場で理解を深め、まずは身近なことから少しずつ取り組むことで、持続的な企業の成長に繋がることが期待される。

企業からの声

- ・現時点では想像のレベルで実感はまだないが、影響があるのは確実だ (建築工事)
- ・日本政府の方向が決まれば、企業側は現実的な対応を行うだけである (鉄鋼製造)
- ・まずはできることから取り組んでいく (鉄骨工事)
- ・あまり SDGs の取り組みに大きな意味があるとは感じられない (内装工事)

※中小企業基本法に準拠するとともに、全国売上高ランキングデータを加え、下記の通り区分。

業界	大企業	中小企業(小規模企業を含む)	小規模企業
製造業その他の業界	「資本金3億円を超える」かつ「従業員数300人を超える」	「資本金3億円以下」または「従業員300人以下」	「従業員20人以下」
卸売業	「資本金1億円を超える」かつ「従業員数100人を超える」	「資本金1億円以下」または「従業員数100人以下」	「従業員5人以下」
小売業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員50人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員50人以下」	「従業員5人以下」
サービス業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員100人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員100人以下」	「従業員5人以下」

注1: 中小企業基本法で小規模企業を除く中小企業に分類される企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが上位3%の企業を大企業として区分

注2: 中小企業基本法で中小企業に分類されない企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが下位50%の企業を中小企業として区分

注3: 上記の業種別の全国売上高ランキングは、TDB産業分類(1,359業種)によるランキング